

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録			
招 集 期 日	平 成 3 0 年 1 月 2 5 日 (木)		
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室		
開 会	1 月 2 5 日 午 前 9 時 3 0 分		
閉 会	1 月 2 5 日 午 前 1 1 時 4 5 分		
教 育 長	戸ヶ崎 勤		
教 育 長 ・ 委 員 出 席 状 況	戸ヶ崎 勤	出 席	
	仙 波 憲 一	出 席	
	吉 田 辰 行	出 席	
	鈴 木 晃	出 席	
	土 肥 美 奈 子	出 席	
説 明 員	熊谷次長、栗津副参事、渡部教育政策室長、		
	武藤学務課長、教育政策室 川和田担当課長、細井学校給食課長、		
	津田生涯学習課長、小須田図書館・郷土博物館長		
書 記	教育総務課総務担当 山本副主幹、片桐主任		
傍 聴 人	2 人		

会議の経過及び結果

教育長

昨年12月5日、「羽生善治棋聖、前人未到の永世七冠達成」との明るいニュースが日本中に広がりました。彼は、小学2年で将棋クラブに入ったものの、本来は8級からスタートするところを、何と15級からトボトボ歩き始め前人未踏の頂へと歩みを進めました。そして、来月13日には、囲碁で2度の7冠独占を果たした井山裕太氏とともに国民栄誉賞が授与される予定になっています。

勝手に推察するに、旺盛な好奇心、探求心、やり抜く力（grit）に加え、少しずつ着実に級が上がるストレッチゴールの連続に対し成功体験を積み上げ、才能がどんどん磨かれていったものと思います。色紙には「八面玲瓏」とよく書くそうです。山の頂から眺める澄んだ景色や、迷いのない心境のことで、今まさにその境地なのかもしれません。しかし、この偉才にして永世七冠までは9年もの険しい道のりでした。一方その9年間は、まさに将棋界がAIに挑戦された期間でもありました。

数学的には、将棋の局面変化は実に10の220乗通りもあります。20年以上前ですが、プロ棋士に「コンピュータに負ける日が来るか」というアンケートが行われました。多くの棋士が真っ向から否定するなか、その日が来るのをほぼ正確に予想していたのが羽生さんです。人間はAIとどのように共存すべきか、などに関心を寄せていた彼は、一昨年5月放映のNHK特番で、米国や英国に出かけて英語でインタビューしながら、次のようなことを述べていました。

現状では人の知能とAIにはまだ違いが多く、一概に優劣はつけられません。その違いを知り有効活用できるスキルを磨くことが大切です。また、AIでは今後できないこと、それは、意味あるものを見つけ出す「価値判断」や、目標や質問など「問いを立てる」ことなどです。

今の子供たちが大人になる頃、現在ある仕事の多くはAIに奪われているという予測があります。365日働き続ける機械に生産性でかなうはずありません。子供たちには「価値を判断できる」「自ら問いを立て

	られる」という力が身につく体験を多く与えてやる必要があります。羽生さんの「伝統を重んじつつ常に最先端を追求する姿勢」は、正に不易流行の正鵠を得ることに通じると思います。
教育長	<p>ただ今から、平成30年第1回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。</p> <p>初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいておりますので、御異議がないようでしたら承認ということによろしいでしょうか。</p>
各委員	了承
教育長	それでは、会議録に御署名をお願いします。
各委員	署名
教育長	<p>次に、秘密会となる案件につきましてお諮りいたします。</p> <p>「議案第1号 平成29年度一般会計教育委員会関係3月補正予算(案)について」「議案第2号 平成30年度一般会計教育委員会関係予算(案)について」「議案第3号 平成30年度海外留学奨学事業特別会計予算(案)について」「議案第4号 戸田市教育委員会表彰について」は、議会提出案件及び人事案件となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。</p>
各委員	異議なし
教育長	それでは「議案第1号から議案第4号」は、秘密会とすることに決定いたしました。
教育長	<p>はじめに、「教育委員提案について」御報告いたします。以前の教育委員会にて委員より御質問のあった件について報告がございます。</p> <p>① チーム学校による教員の負担軽減について(吉田委員)</p> <p>② 戸田市プログラミング教育について(鈴木委員)</p>

	<p>③ 戸田市の道徳教育について（仙波委員）</p> <p>それでは吉田委員から御提案のありました「教育委員提案① チーム学校による教員の負担軽減について」事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>①チーム学校による教員の負担軽減について報告します。</p> <p>昨年度、文部科学省委託事業として「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」を戸田市教育委員会として委嘱を受け、事業終了後、昨年3月の定例教育委員会で報告させていただきました。</p> <p>現在は、「チーム学校」の理念のもと、昨年度の成果を受け、継続している取組等、学校における働き方改革と戸田市教育委員会の取組の状況を中心に御説明いたします。</p> <p>中央教育審議会から昨年8月31日に示された「学校における働き方改革における緊急提言」では、教職員の長時間勤務の看過できない実態の改善に向けて、取り組むべき多くの具体的な内容が示されております。ここで示された取り組むべき多くの具体的内容には、既に、戸田市で取り組んでいる教職員の負担軽減策も多くありますので、資料1ページ以降の表の左側に緊急提言、右側に戸田市教育委員会の取組をまとめましたので、そちらを御覧ください。</p> <p>緊急提言の1に「校長及び教育委員会において『勤務時間』を意識した働き方を進めること」とあります。</p> <p>表の1つ目の丸「適切な手段で教職員の勤務時間を把握すること」では、本市において、昨年度、全小・中学校にICカードの端末を配置し、出退勤管理ソフトを使って客観的な在校時間の把握をしております。</p> <p>2つ目の丸「留守番電話等の整備」については、今年度導入を検討し、校長会で時間設定等を決定いただき、市内全学校で今月から留守番電話機能を導入いたしました。また、「メールによる連絡対応」については、既にメールによる一斉配信を行っております。</p>

3つ目の丸「部活動の適切な運営」については、校長会で決定した部活動休養日の設定をしております。また、今年度、教育委員会では、部活動の在り方検討委員会を設置し、今後、部活動の在り方ガイドラインの作成を行うところです。

4つ目の丸「学校閉庁日の設定」ですが、今年度より8月11日から16日までの6日間を学校閉庁日とし、教職員が休暇を取得しやすくしました。

5つ目の丸「マネジメント研修」については、文科省学校業務改善アドバイザーの妹尾先生による「教員の負担軽減と業務改善」についての管理職研修を実施いたしました。また、校長会でも随時、学校における負担軽減や働き方改革についての情報提供や指示伝達をしております。

資料2ページ、緊急提言の2「全ての教育関係者が学校・教職員の業務改善の取組を強く推進していくこと」を御覧ください。

表の1つ目の丸「教育委員会における業務改善方針・計画の策定」については、市内の校長や教頭、主幹教諭、教諭、事務職員の代表者をメンバーとする負担軽減検討委員会を開催し、それぞれの委員から意見をお伺いしているところです。

2つ目の丸「統合型校務支援システムの導入」については、平成23年度よりC4thという校務支援システムを導入し、今年度も教員の業務に合わせて、保健事務のシステム更新を実施いたしました。

3つ目の丸「学校に対する依頼・指示等の整理・把握」については、文科省から受託した「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」の可視化WGで収受文書の件数を調査し、鑑文書に内容の要約を記載したり、メール送信の際に件名の前に【通知】【様式送付】などをつけたりして、目的が一目で分かるような工夫をしております。

4つ目の丸「給食費の公会計化」については、現在、学校給食課において検討を進めているところです。

5つ目の丸「事務職員の活用による事務機能の強化」については、現在、事務の共同実施を行い、事務職員に兼務発令をし、お互いの学校に行き、出勤簿と旅行命令簿、学校日誌等の確認を共同で行っております。今後さらに事務の効率化に向け検討を進めていく予定です。

続きまして、3ページ、緊急提言の3「国として持続可能な勤務環境整備のための支援を充実させること」を御覧ください。これは、今後、国が支援していくものですが、本市でも既に取り組んでいるものもございます。

表の1つ目の丸「業務改善のためのアドバイザー派遣」とありますが、これも「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」効率化WGで取り組みました。民間企業の視点での業務改善コンサルティングを依頼し、学校現場に入り、教員の業務の調査・分析、アドバイス等、働き方の見直しを図りました。働き方改革の大事な視点のひとつに「教職員の意識改革」がありますので、現在はこの手法を各学校に広め、自分たちの学校で業務改善に向けて取り組んでもらおうと考えております。

2つ目の丸「コミュニティ・スクール等による学校支援の充実」につきましては、来年度から全小・中学校に導入するため、現在各校で準備委員会を立ち上げ、教育委員会としても研修会の開催等を行っております。本市のコミュニティ・スクールの進捗状況については、これまで報告しているとおりで。

3つ目の丸「空調設備等の設置」につきましては、本市では平成17年度というかなり早い段階から全ての小・中学校の職員室、教室及び特別教室等にエアコンを完備しております。

4つ目の丸「スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置」につきましては、現在、中学校の県費SCに加え、市費による小学校SCの配置、また、中学校には市費によるさわやか相談員、ボランティア相談員を配置しており、教育相談機能の充実を図っております。さらに、SSWですが、現在県費SSWの2名に加え、

市費によるSSWを1名任用し、3名体制で学校の支援充実を図っております。

5つ目の丸「多様なニーズに応える支援スタッフの配置」につきましては、資料4ページのとおり、市費にて様々な支援スタッフを任用してチーム学校を支えております。

6つ目の丸「事務作業等をサポートするスタッフの配置促進」につきましては、本市では既に各校2名の校務員を配置し、教員の印刷作業を請け負えるようにしております。

最後のスクールロイヤーにつきましては、その必要性や活用の用途など先行事例を見極めつつ、今後検討してまいります、

資料5ページ以降は昨年末の12月22日に示された、中教審からの働き方改革に関する総合的な方策についての中間まとめと、それを受け、文部科学省から同月26日に示された緊急対策の概要です。

中間まとめでは、学校が抱える課題は、より複雑化・困難化し、教員の長時間勤務やメンタルヘルスへの影響が出ており、質の高い学校教育を持続発展させるためには、教員の業務負担の軽減が喫緊の課題であると指摘されています。

中間まとめにおいて示された具体的な方策を踏まえ、文科省が実施する内容を取りまとめたものが、資料10ページの「学校における働き方改革に関する緊急対策【概要版】」です。中間まとめでは、これまで学校が担ってきた代表的な業務を「基本的には学校以外が担うべき業務」と「学校の業務であるが、必ずしも教師が担う必要のない業務」、「教師の業務であるが、負担軽減が可能な業務」と整理し、それぞれの業務を適正化するための取組を進めていくことが示されています。これに基づいて業務を適正化するための取組として、具体的な方法がまとめられています。今後、これをもとに、学校における働き方改革をさらに加速させていきたいと考えております。

教 育 長	何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	昨年度、文部科学省から委託を受け、業務改善が順調に進んでいると思います。在校時間調査を行っていると思いますが、長時間勤務について現状はいかがですか。
事 務 局	出退勤管理ソフトにより、毎月、各学校の勤務状況を把握しております。学校によって差はありますが、減ってきております。
事 務 局	働き方改革をしなければいけないという意識が、管理職だけでなく一般教員にも浸透してきています。現在、部活動の在り方ガイドラインの作成を行っていますが、休養日の設定など皆が自覚してきています。戸田市は外部人材に恵まれておりますので、そのような方々の御協力をいただきながら進めていきたいと考えております。
委 員	学校は他の業界に比べて残業が多いと思いますので、できるだけ少なくすることを教育委員会が率先してやり抜いてほしいと思います。
委 員	現場の先生方は子供たちのために皆一生懸命です。先生方の意識の改革や先生方に裁量を与える必要があるのかもしれない。これ以上はやらない、というガイドラインを作ればよいのでしょうか。
事 務 局	教員には、子供たちのために、という使命感・責任感があります。また、テストやプリントなどを自作して一人前という文化もあり、なかなか働き方改革が進んできませんでした。「カエル会議」（早く帰る、仕事のやり方を変える、人生を変えるという意味を持ち、教員同士で業務の課題や改善策等を話し合う。）などを行い、教員の意識を変える必要があります。教育委員会が率先して示していかなければならないと考えています。
委 員	コミュニティ・スクールの在り方が重要になってきますね。
委 員	先生としてやらなければいけない業務はこれだと示す必要があるのではないのでしょうか。

委 員	負担軽減と言うのは簡単ですが、どの業務を削減するのか、どの業務を残すか決めるのは難しいと思います。どのようにしていけばよいのでしょうか。
教 育 長	負担軽減、業務改善については以前から問題となっていたことです。やっと国全体で本気になってきたところですよ。それぞれの教員の思いや独自性を大切に考えると一律に制限することも難しいと思います。本市の取組は他市に比べてどうなのでしょう。
事 務 局	本市では以前より導入している校務支援システムですが、システムを導入している自治体は県内では少なく、県教委が視察に来るほどです。
教 育 長	国レベルではいかがですか。
事 務 局	高い評価を受けております。緊急提言で示されている取組について、本市ではほとんど実施しており、進んでいると言ってよいかもしれませんが、今後も気を引き締めて推進してまいります。
教 育 長	戸田市は財政力があるからできるのだとよく言われます。しかし、大切なのは、教育委員会が真剣になっているかどうかです。教育委員会が真剣になっていることが教員に理解されているのか、なぜ働き方改革が必要なのかも含め、地域住民や保護者、議員など皆に知ってもらう必要があります。 子供たちに必要とされる資質・能力を育むことができるような「日本型学校教育」を維持したり新学習指導要領を進めていくために、負担軽減や業務改善を行うこと、そのためには産官学民の知のリソースを活かす必要があることをこれまで以上に周知していきたいと考えています。
教 育 長	続きまして、鈴木委員から御提案のありました「教育委員提案② 戸田市プログラミング教育について」事務局より説明願います。
事 務 局	②戸田市プログラミング教育について報告します。 映像を御覧いただいた方がわかりやすいかと思っておりますので、まず、今

月、テレビ埼玉の「ふれあい戸田」で放映されている「戸田市のプログラミング教育」の映像を御覧ください。

(ふれあい戸田視聴)

まず、プログラミング教育導入の背景ですが、20世紀後半のコンピュータによる自動制御などの第3次産業革命からすでに今世紀に入り、AIの発達による第4次産業革命がスタートしております。このような中、諸外国では既にプログラミング教育の必修化の流れが進んでおります。また、経済産業省の調査によると、今後、IoT、ビッグデータ、人工知能など、最先端技術を開発・発展させる担い手が今後不足するという予測が出ている状況です。

資料3 ページ上段を御覧ください。2020年度に全面実施される小学校新学習指導要領における扱いとして、大きく4点がポイントになっております。2つめの「プログラミング的思考の育成」は、パソコンで難しいプログラミング言語を用いるような技能を育成するのではなく、いわゆる論理的思考を育成するものと示されています。また、プログラミング科という新しい教科を新設するのではなく、教育課程全体、つまりは今ある教科等の取組の中でプログラミング教育を実施すると示されています。

3 ページ下段は、中央教育審議会の教育課程部会におけるプログラミング教育の在り方に関する議論のとりまとめです。赤い枠のところに、先程申し上げた「プログラミング的思考」に関する記述が明記されています。

また、国の動きとしては、文部科学省、総務省、経済産業省の3つの省が連携してプログラミング教育を推進する「未来の学びコンソーシアム」という組織を立ち上げております。この組織は、学校をはじめとする教育関係者とIT企業などの産業界が連携し、プログラミング教育を推進していこうとしており、本市が自力で取り組んでいる「産官学民の知のリソースの活用」を国がコーディネートしていこうとするようなも

のです。なお、このコンソーシアムの運営協議会には、教育界、産業界の有識者が委員をされているわけですが、戸ヶ崎教育長も運営協議会委員を務めております。

コンソーシアムの具体的な取組としては、先程申し上げたようなコーディネートや情報提供が主で、指導内容、指導場面、研修体制、環境や教材の整備などは、自治体や学校の実践から優良事例が生み出されていくことに任されている状況です。

5 ページ下段を御覧ください。先程御覧いただいた「議論の取りまとめ」の下段に、小学校段階におけるプログラミング教育の実施例が記載されています。総合的な学習の時間や理科、算数などに関連した取組の例示がされていますが、例えば、算数との関連であれば、時間数が増えない中でどのようにプログラミング教育を関連付けるかは、大変苦慮されることが予想されます。今後、新学習指導要領に基づいて、各教科の新しい教科書が作成されますが、どのようにプログラミング教育が関連付けられるかは大変注目されるところです。

具体的な取組が定まらない中、戸田市としては、指導内容などについて、引き続き戸田市小中一貫カリキュラムを作成することといたしました。また、研修や教材の整備については、今年度すでに実施しておりますが、産官学民と連携した研修や教材整備を進めてまいります。また、各学校の教員を委員とする戸田市プログラミング・ICT研究推進委員会を設置いたしました。この委員会は、小中一貫カリキュラムの作成や教材を選定する際の意見をいただく組織です。また、各学校のプログラミング教育の核となる教員も育成していきたいと考えております。

さて、戸田市独自で作成する、プログラミング教育に関する「小中一貫カリキュラム」について御説明いたします。先程申し上げた文部科学省の示す「各学校のカリキュラム・マネジメントにより、教育課程全体の中で実施」というのは、聞こえはよいのですが、柔軟性がありすぎて、各教科の中に、どの程度プログラミング教育を組み込めるかは未知数のところがあります。また、すべてを学校の裁量に任せると、プロ

プログラミング教育をあまり実施しない学校と、積極的に実施する学校で学校間格差が出てしまうことも懸念されます。

そこで、文科省の示す「各学校のカリキュラム・マネジメントにより、教育課程全体の中で実施」については、「発展的な内容」と捉え、本市といたしましては、まずはプログラミング教育に関する基本的な内容を、小中一貫カリキュラムとして、生活科と総合的な学習の時間で実施しようと考えております。

実際に教科と関連させたプログラミング教材を使うにしても、ある程度、その教材の使い方に慣れ親しんでいないと、児童はもちろん教員もうまく使うことができないと思われれます。小中一貫のカリキュラムについては、主たるプログラミングスキルなどを習得するミニマム・スタンダードを考えております。

7ページ上段のように、小学校1年生から3年生は、「アンプラグド」の取組を各学年3時間程度、4年生以上、中学生も含め、主に「スクラッチ」を各10時間程度予定しております。

ここで多少用語などの具体的な説明をいたします。まずは、小学校1年生から3年生で実施する「アンプラグド」です。アンプラグドは、コンピュータ・サイエンス・アンプラグドの略で、小学校から理解できる教材としてニュージーランドで開発された教育法です。アンプラグドの言葉どおり、プラグを使わないという意味で、コンピュータでプログラミングをするのではなく、ゲームやグループ活動をとおして楽しく学ぶものです。

8ページは、低学年のアンプラグドの授業の一例で、Bee-Bot という知育ロボットを使った授業です。ゴールに向かって、前後左右のコマンドを入力するプログラムを考えて、Bee-Bot を動かしていきます。この取組は、動き方を細分化して、プログラムをしていく取組ですが、人間の日常生活の中の動き、例えば、トイレまで行く動き方や、歯磨きをする動き方など、アンプラグドなので、パソコンを使ったプログラミングでは

ありませんが、子供たちは試行錯誤し、話し合いながらプログラミング的思考を育てていくことができる活動です。

次に、小学校3年生から中学校で活用を予定している「スクラッチ」です。スクラッチは、マサチューセッツ工科大学で作ったビジュアル・プログラミング言語です。無料で活用できる上、日本語にも対応しているため、国内の小学生向けに活用されています。操作方法はいたってシンプルで、ブロックを組み合わせてキャラクターを動かしていきます。

9ページ下段は、スクラッチの実際の画面です。難しいプログラミング言語ではなく、キャラクターを動かすための命令ができるブロックを組み合わせていく、直感的に操作ができるものです。一方で、高度なプログラムを組むこともできるので、初心者から熟達者まで十分に活用できるものです。

10ページ上段は、授業でスクラッチを活用している様子です。子供たちは失敗を恐れずに、友達と協力をしながら主体的に取り組んでいます。間違っていたら、間違っていた場所を見つけ、試行錯誤し、探究していきます。

10ページ下段を御覧ください。先程、平成32年度の小学校における新学習指導要領全面実施の際の最終的な時間数をお示ししましたが、来年度からは準備期間として、小学校4年生以上で3時間程度実施し、段階的に時間数を増やしていきたいと考えております。また、中学校についても、来年度は教員研修と中学校3年生での取組を始め、平成33年度には10時間程度の実施となるよう段階的に進めてまいります。

この推進プランは、あくまでも無理のないミニマム・スタンダードの推進プランです。さらにもっと進めていきたいという学校は、カリキュラム・マネジメントにより発展させていくこともあろうかと思っておりますので、教育政策室としてもしっかりと支援をしてまいります。

11ページ上段は、プログラミング教育を来年度から実施するための戸田市オリジナル教材「スクラッチを学ぼう」です。学校経営アドバイ

ザーの江添先生に作成していただきました。

1 1 ページ下段は、現在戸田市で試用しているプログラミング教材です。既に購入したものや、企業との共同研究として試用している教材などがございます。購入に向け、今後、慎重に検討をしております。

1 2 ページを御覧ください。先程御紹介したスクラッチベースのプログラミング言語を使用した実践例です。「戸田市のイルミネーションを考えよう」という、イメージ豊かに作成した建物にLEDを点灯させる題材で、そのLEDの点灯の仕方をプログラムする活動です。上段の写真は、LEDを光らせるタイミングの設計図です。

1 2 ページ下段は、ソニー・グローバルエデュケーションが開発したKOOVという教材です。ブロックを組み合わせ、様々な形を作成することができます。パソコンと作品を繋ぐ白いコードが電源コードです。

1 3 ページを御覧ください。上段の写真は、作成したイルミネーションをよりきれいに光らせるために検討しているところです。何色を何秒光らせるかという議論など、それをプログラミングに反映させている様子です。

下段の写真は、作品を学級で見合っている様子です。誰もが集中して作品を見ていることがおわかりいただけるかと思います。子供たちに「よく見て」と言わなくても、他の班の取組を見ているというのは、他の教科では見られない様子かと思います。

1 4 ページを御覧ください。今月の広報戸田市では、巻頭でプログラミング教育の特集を3ページにわたり組んで、周知を行いました。

1 5 ページを御覧ください。プログラミングの研究発表会を2月8日(木)に芦原小学校で行う予定です。総務省が各都道府県のプログラミング教育を支援する事業ですが、このたび、先進的に取り組んでいる戸田市での開催について総務省より依頼があったものです。当日は、県内から多くの参観者が集まるものと思います。

	<p>また、仙波委員より御紹介いただいた経済教育でお世話になっているCEEジャパンの中許様とのプログラミング教育に係る連携として、KDDIの出資をもとに、先程御説明したアンプラグドのロボット教材であるBee-Botを40台程度寄贈いただくこととなりました。そのため、当日、簡易なものではありますが、公開授業前に贈呈式を予定しております。</p> <p>本研究発表会につきましては、是非、教育委員の皆様にも御臨席いただければ幸いです。</p>
教育長	何か御質問等がありましたら伺います。
委員	新学習指導要領全面実施前にこれだけのことが行われていて素晴らしいと思います。
事務局	一部の学校や一部の先生が積極的に取り組んでいるという状況の中、戸田市では全ての学校、全ての先生が取り組んでいるのが素晴らしいと産官学民で連携している方々から言われます。今後も実践的な教材やカリキュラムを作ってまいります。
委員	広報で3ページの特集を組んだことも素晴らしいと思いますが、受け取る側の家庭の格差が出てしまわないか心配です。
事務局	地域のNPOと連携して、地域でも学べるようにしていきます。
教育長	本市には地域の力や産官学民の知のリソースがあります。これらを積極的に学校教育に取り入れてまいります。
教育長	続きまして、仙波委員から御提案のありました「教育委員提案③ 戸田市の道徳教育について」事務局より説明願います。
事務局	<p>③戸田市の道徳教育について報告します。</p> <p>資料2ページを御覧ください。道徳につきましては、来年度から小学校で、再来年度から中学校で教科化され、「特別の教科 道徳」となり、「考え、議論する道徳」への質的変換が図られます。</p>

このたび、道徳が教科化され、質的変換を求められる理由として、子供たちのいじめや暴力行為などの状況に対し、道徳の授業は、これまでその成果を十分に示せなかったのではないかということが、最大の要因であろうかと思えます。

また、道徳授業は、忌避傾向と軽視化傾向が見られたり、形式化・形骸化された授業が広がったり、その効果が発揮されてこなかったのではないかと長く言われ続けてきたことも要因であるかと思えます。

そこで、そのような課題に対応するため、「考え、議論する道徳教育」への質的な転換が求められております。

なお、戸田市では、年間35時間（小学校1年生は34時間）の授業が実施されており、軽視していることはございません。また、市の道徳研究部会と連携し、資料2ページ中段のとおり、道徳教育全体計画の改善や年間指導計画の改善を行い、各学校に周知したところです。

特に、年間指導計画の改善につきましては、本市の特色として大きく3点、1つ目は児童の発達の段階に合わせた重点的に指導する内容項目の設定、2つ目は複数時間の指導の導入（2週にわたった指導）、3つ目は道徳的価値の理解を基にした自己を見つめる学習の充実があります。

また、具体的な授業レベルでの改善につきましては、大きく2点、1つ目は非認知スキルの育成、2つ目はいじめ根絶授業18があります。非認知スキルの育成については、これまでもすべての教育活動で実施しているところですが、道徳科でも意識的に取り組んでいくものです。いじめ根絶授業については、小中9年間で、トータル18回のいじめ根絶授業を道徳で実施するものです。授業の時期については、年度当初の4月～5月に1回といじめ撲滅強調月間（11月）に1回の年2回を予定しております。その他にも、生命の尊さを学ぶ授業を各学年3時間実施いたします。

3ページは、全学年の月別の教材一覧です。赤い印が「いじめ根絶授

	<p>業18」、黄色い印が「2週にわたった重点項目教材の指導」です。</p> <p>4ページは、学年別一覧です。4つの視点と22の内容項目で実施してまいります。</p> <p>今後も、「考え、議論する道徳教育」の推進に向けて、学校訪問時の指導や教員研修会を実施するとともに、授業参観などでは保護者や地域の方への啓発を進めてまいりたいと考えております。</p>
教育長	何か御質問等がありましたら伺います。
委員	<p>評価するという視点に対して、戸田市としてどのように進めていくかを聞いたかったので質問させていただきました。自分ならどうするか、他者との議論が重要で、それがアクティブ・ラーニングやディープラーニングにつながります。ぜひ、「考え、議論する道徳教育」を進めていただきたいと思います。そして、それをアピールしていただきたいです。</p>
教育長	<p>人が人の心を評価するのか、価値を押し付けるのではないかとよく言われますが、数値的な評価をするのではなく、自分の考えが他者とどのように関わったかとか変化したかということの評価するものです。</p> <p>また、結論めいたものを強制するわけではありませんので、考え、議論するのだということを理解していただくよう、啓発が必要であると考えています。いじめ根絶のための授業を日常的に行っていることなども知っていただけたらと思います。</p>
委員	<p>保護者の目は学校に対して批判的になりがちですので、大いに発信、周知していただきたいと思います。</p> <p>学校訪問で授業を拝見した際、先生の価値、結論が出てしまっている部分が一部あったので、十分注意していただきたいと思います。</p>
委員	多様性を理解し、考え、議論することが必要ですね。
教育長	保護者の立場からすると、学校はいじめ根絶の授業をしているから、それで十分だと思うのではなく、もっと一人一人に目配りをしてほしい

	<p>ということだと思います。日頃から情報を発信し、正しく理解していただくようにいたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは他に御質問等がないようですので、続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして6件の報告がございます。</p> <p>① 平成29年第5回戸田市議会定例会（12月）における要望等事項について</p> <p>② 戸田市立小・中学校 平成29年度卒業式・平成30年度入学式の日程及び参列者について</p> <p>③ 平成29年度戸田市算数・数学フェスティバルの実施について</p> <p>④ 平成29年度戸田市教育フェスティバルの実施について</p> <p>⑤ 平成29年度小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会の実施について</p> <p>⑥ その他</p> <p>詳細につきまして、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了したのちに伺います。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>①平成29年第5回戸田市議会定例会（12月）における要望等事項について報告します。</p> <p>12月議会の一般質問において、花井議員から要望等事項がありました。要望等の要旨とそれに対する回答要旨は資料1ページのとおりです。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>②戸田市立小・中学校 平成29年度卒業式・平成30年度入学式の日程及び参列者について報告します。</p> <p>今年度の卒業式は、中学校が3月15日(木)、小学校が3月22日(木)に行われます。また、平成30年度入学式は、小中学校ともに4月9日(月)に行われます。卒業式、入学式とも、小学校は午前中に、中学校は午後を実施することとなっております。なお、各学校によって、開式の時刻が異なっております。</p> <p>卒業式及び入学式当日は、戸田市教育委員会の言葉を述べるため、教</p>

	<p>育委員の皆様方に御参列いただいております。それ以外の学校につきましては、教育委員会事務局職員が参列する予定です。御参列いただく学校の案につきましては、資料のとおりです。</p>
事務局	<p>③平成29年度戸田市算数・数学フェスティバルの実施について報告します。</p> <p>平成29年12月16日(土)に戸田南小学校において、戸田市算数・数学フェスティバルを実施いたしました。</p> <p>午前の第14回数学コンテストには91名、午後の第10回算数・数学おもしろ教室には454名が参加し、合計545名(小513名、中32名)の参加となりました。</p> <p>最優秀賞は、新曽北小学校の6年生が100点満点という驚愕の成績で受賞いたしました。</p> <p>資料3ページはフェスティバルの様子です。また、コンテスト問題を添付しておりますので、お時間のある時に御覧ください。</p>
事務局	<p>④平成29年度戸田市教育フェスティバルの実施について報告します。</p> <p>去る1月9日(火)に戸田市文化会館にて実施いたしました教育フェスティバルにつきまして、当日は教育委員の皆様には大変御多用の中、最後まで御参加いただきありがとうございました。</p> <p>実施結果といたしまして、参加者数は合計で525名でした。当日は、筑波大学教授の柘植雅義様による「特別支援教育のこれから～インクルーシブな教育と社会に向けて～」の御講演と、文部科学省初等中等教育局教育課程課長の淵上孝様による「次期学習指導要領について」の御講演と豪華2本立てということで、大変有意義な研修会となりました。</p> <p>資料3ページは、教員アンケートから抜粋した感想です。いわゆる「どうやって行うかのHow to研修」ではなく、「何をすべきかに焦点をあてたWhat to研修」でした。各教員の教育観に刺激を与えるものになった</p>

	<p>ことと思います。</p>
事務局	<p>⑤平成29年度小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会の実施について報告します。</p> <p>去る1月20日（土）に戸田市文化会館にて実施いたしましたプレゼンテーション大会につきまして、当日は教育委員の皆様には審査にも御協力いただき、ありがとうございました。</p> <p>参加者数については、児童生徒87名を含む、合計277名でした。</p> <p>来賓については、神保市長をはじめ、市議会議員の方々や、文部科学省、県教育委員会、県外からは那須塩原市教育委員会などの方々、また多くの企業の方にもお越しいただきました。</p> <p>戸田東小と新曽中がグランプリとなりましたが、児童生徒は、各学校の先生方の指導のもと、この日のために頑張ってお練習し、緊張しながら一生懸命にプレゼンした様子は感動的なものだったと思います。一方で、プレゼンの課題設定が児童生徒自身の課題であったかということや、調べたことの発表だけでなく、それをもとにどうしたいかなどのメッセージ性など、「そもそもプレゼンとは」ということを改めて各学校で検討していただくことや、教員研修を充実させていく必要があると感じさせられました。</p> <p>プレゼン大会はイベント的な要素がありますが、プレゼンテーションは、当日のインテルの竹元様からのお話にあったように、今後重要になる21世紀型スキルの1つであり、あらゆる学びの集大成とも言えるものです。今後、担当課としましては、プレゼン大会がイベントではなく、日々の授業の延長線上にあるものとなるよう指導・支援していきたいと考えております。</p>
教育長	<p>次に⑥その他ですが、事務局より何かありますか。</p>
事務局	<p>学校給食費の支払督促申立てについて御報告いたします。</p>

	<p>学校給食費の未納対策につきましては、これまでも御報告してきたところですが、このたび、支払能力があるのに支払いに応じない保護者9名に対し、さいたま簡易裁判所に支払督促の申立てを行いました。</p> <p>支払督促申立てを行ったことについて、1月9日の埼玉新聞に記事が掲載され、記事を御覧になった市民の方々から激励のお電話を多数いただきました。</p> <p>今後も家庭訪問等を行い、未納を減らすとともに、悪質な未納は許さず、支払の公平性を保ちたいと考えております。</p>
教育長	<p>以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。</p>
教育長	<p>報告事項③について、数学コンテストで100点満点取れた児童は飛び抜けていると感じました。ギフテッド教育を行う必要があるとも感じました。最優秀賞受賞者は国際数学オリンピックの金メダリストと対談できるということなどができたらおもしろいですね。</p>
委員	<p>報告事項⑤のプレゼン大会は大変有意義であると思います。</p> <p>審査員として採点させていただきましたが、どのような視点から採点するか、審査員にも児童生徒にも十分伝わっていなかったように思います。また、イベント的に捉えられてしまっているように思います。</p> <p>その点が今後の課題であり、改善が必要であると思います。</p>
事務局	<p>イベント的に捉えられてしまっていることは大きな課題と受け止めております。総合的な学習の時間などで自分たちの課題として調べていくその延長線上にプレゼン大会があるべきです。21世紀型スキル育成の一環として開催したいと考えています。</p>
委員	<p>課題発見からそれをどう改善していくのかというのが評価のポイントであるかと思いますが、課題の軽重や課題発見はそれぞれ違うわけで、それを評価するのが難しいと感じました。</p>

教育長	<p>審査の在り方を来年に向けて検討したいと思います。</p> <p>何がプレゼンなのか共通理解が必要で、今年は問題提起された大会であったと思います。今年の課題を来年に活かしてまいります。</p>
委員	<p>プレゼンはひとりで行うというイメージがあるのですが、なぜ複数人なのですか。</p>
事務局	<p>総合的な学習の時間の調べ学習の延長としてプレゼン大会を実施しています。調べ学習はグループで行っているということ、また、文化会館の大ホールでひとりだと負担感があるため、複数人で行っています。</p>
教育長	<p>それでは、他に質問等ないようですので、次に、次第の6 その他の「次回の教育委員会の日程（案）」について、事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>次回、教育委員会定例会の日程ですが、平成30年2月15日（木）午前9時30分からの開催について、お伺いいたします。</p>
教育長	<p>それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>了承</p>
教育長	<p>それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次に、その他ですが、事務局から何かございますか。</p>
事務局	<p>特になし</p>
教育長	<p>その他に委員から教育委員提案のテーマについて何かございますか。</p>
委員	<p>公民館の現状、課題や今後の在り方について報告をお願いします。</p>
事務局	<p>承知いたしました。</p>
委員	<p>建て替え後の戸田東小学校・中学校の図書室及び多目的ホールの使い方について御報告をいただく際に、特に図書室において、特別な支援を要する子供たちへの配慮や市民への開放など長期的な視点から報告をお</p>

	願います。
事務局	承知いたしました。
委員	以前、どのような場合に特別支援学級に入ったらよいのか、また相談体制について質問を受けたことがありました。ついては、就学相談や就学支援の在り方について報告をお願いします。
事務局	承知いたしました。
委員	ICT機器の整備状況について、現状と戸田市としての当面の目標を報告してください。
事務局	承知いたしました。
教育長	それでは、「議案第1号から議案第4号」を議題といたします。秘密会とすることに決定しておりますので、説明員で議案に関係する職員以外は退席願います。
教育長	<p>【関係者以外の退席を確認後】</p> <p>それでは、「議案第1号 平成29年度一般会計教育委員会関係3月補正予算（案）について」を事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>まず、歳入につきましては、学校施設環境改善交付金の交付決定がされたことから、国庫補助金について増額補正するものです。</p> <p>歳出につきましては、すべて減額補正となります。</p> <p>教育総務課の小学校施設整備事業と中学校施設整備事業に係る減額補正です。契約差金が生じたことによるものです。</p> <p>次に、生涯学習課の文化財保護事業に係る減額補正です。事業が完了したことによる減額です。</p> <p>次に、図書館・郷土博物館の展示及び教育普及事業に係る減額補正です。展示計画変更により、他館からの資料借用を行わなかったことに伴</p>

	<p>う減額です。</p> <p>最後に、教育総務課の奨学資金貸付事業に係る減額補正です。これは、今年度の貸付額が確定したことによる減額です。</p> <p>また、戸田第一小学校仮設教室賃借料の債務負担行為につきましては、戸田第一小学校校舎等建て替え工事に向けた基本計画を平成30年度中に策定し、改築等工事の全体の方針等が決定した後に当該仮設教室の位置等を決定することとなったことから、廃止するものです。</p>
教 育 長	<p>以上で説明が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。</p>
教 育 長	<p>それでは、特に質問等がないようですので打ち切ります。議案第1号は、提案内容のとおり議決することに御異議ございませんか。</p>
委 員	<p>異議なし</p>
教 育 長	<p>異議なしと認め、議案第1号は提案内容のとおり議決いたします。</p>
教 育 長	<p>次に、「議案第2号 平成30年度一般会計教育委員会関係予算（案）について」を事務局より説明願います。</p>
事 務 局	<p>資料3ページ以降を御覧ください。課別、大事業ごとに説明いたします。特に各事業について、平成29年度はと大きく増減のあるもの、新たな事業について、概要を説明いたします。</p> <p>はじめに教育総務課です。</p> <p>小学校施設管理費は、学校の消耗品、光熱水費、施設・設備の修繕、管理業務委託等の経費のほか、平成30年度はタブレットパソコンを2,000台拡充することにより増額となっております。</p> <p>入学準備金貸付事業、奨学資金貸付事業は、ひとつの大事業として統合いたしました。</p> <p>人財育成奨学資金給付事業は、平成30年度から全面実施となるため、増額となっております。</p>

	<p>次に、学務課です。</p> <p>就学援助事業は、就学援助管理システムの改修を行うため、増額となっております。</p> <p>次に、教育政策室です。</p> <p>学校教育指導事業は、小学校補習授業業務を委託し、プログラミング教育推進のための教材の充実を図るため、増額となっております。</p> <p>教育センター管理運営費は、教育センター内のネットワーク整備を行うため、増額となっております。</p> <p>次に、学校給食課です。</p> <p>単独校調理場管理運営事業は、備品の入替を行うため、増額となっております。</p> <p>次に、生涯学習課です。</p> <p>美笹公民館事業及び下戸田公民館事業において、社会教育指導員の減に伴い、減額となっております。</p> <p>最後に図書館・郷土博物館です。</p> <p>図書館管理運営費は、大規模改修工事を実施するため、増額となっております。</p> <p>また、戸田東小学校・戸田東中学校改築等工事、図書館・郷土博物館設備改修工事について、複数年にわたる工事であるため継続費を、資料8ページ以降の複数年にわたる各種業務委託について債務負担行為を計上するものです。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>以上で説明が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、特に質問等がないようですので打ち切ります。議案第2号は、提案内容のとおり議決することに御異議ございませんか。</p>

委 員	異議なし
教 育 長	異議なしと認め、議案第2号は提案内容のとおり議決いたします。
教 育 長	次に、「議案第3号 平成30年度海外留学奨学事業特別会計予算(案)について」を事務局より説明願います。
事 務 局	<p>資料11ページを御覧ください。</p> <p>海外留学奨学事業は、本市将来の発展に資する有用な人材を育成することを目的とし、戸田市民の世帯の子で海外に留学する者に対し、奨学資金及び渡航費用を給与しております。</p> <p>まず、平成30年度の海外留学奨学事業特別会計の歳入歳出予算の総額を、それぞれ959万3千円とするものです。歳出の主なものは、款1の事業費で、留学生への交付金915万円でございます。歳入の主なものは、款2の繰入金で、主に交付金に充てるものを海外留学奨学基金から繰り入れるものでございます。</p>
教 育 長	以上で説明が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
教 育 長	それでは、特に質問等がないようですので打ち切ります。議案第3号は、提案内容のとおり議決することに御異議ございませんか。
委 員	異議なし
教 育 長	異議なしと認め、議案第3号は提案内容のとおり議決いたします。
	【議案第4号を議決し、閉会】